

<論文>

コロナ禍中の民俗行事 —欧米日の比較からみるwithコロナ—

菅根 幸裕

キーワード

来訪神・個別訪問・新型コロナウイルス・社会的適応・ナマハゲ・ハロウィン・クランプス

要旨

近年の新型コロナウイルスの蔓延の中、民俗行事はどのように変容したかを、ヨーロッパ・アメリカ・日本の事例を比較検討しながらその実態を分析するとともに、今後の展望を考察したい。ここで取り上げるのは、いわゆる来訪神行事であるナマハゲ・ハロウィン・クランプスで、こうした集団性をともなう行事が、新型コロナウイルスの蔓延という未曾有の事態に、その本質を変えことなく柔軟に対応し、伝承している姿を分析し、現在継承に悩んでいる多くの民俗行事に対し、いくつかの示唆ができればと考えている。オンラインばかりが解決策ではなく、人々の「集い」の形態を工夫することにより、この3つの行事は遅くも伝承されているのである。

1 はじめに

2019年12月にWHO（世界保健機関）より発表された新型コロナウイルス（以下、コロナ、類似のコロナウイルスと区別する際は新型コロナウイルスと表記）が蔓延して3年が経つ。2022年3月にまん延防止措置が解除され⁽¹⁾、同年5月のゴールデンウィークが最大10連休も後押しして人流は戻りつつある。とはいえコロナが蔓延する以前と同等の生活を送るには程遠く、日本ではマスク生活が浸透し、パターションで席が区切られた飲食店もあり、電車を待つ乗客は無

意識に距離を保ちながら列をなしている。同年7月には、全国の感染者が20万人を超え、第7波となっている。

コロナの感染拡大は民俗行事にも多大な影響を及ぼしている。2020年～2021年にかけて世界中で民俗行事の中止や規模の縮小を余儀なくされた。これらは単に「民俗行事が中止された」だけでなく「地域のコミュニティの一翼を担う絆が弱体化する」ことも意味する。当たり前のように人々が集まり民俗行事を行える非日常の貴重さを知る契機になった。特にコロナの感染が急速に拡大した2020年は「withコロナ」⁽²⁾と公に宣言されても、目に見えない未知の敵から身を守るため安全を優先した生活を送らざるをえなかった。2021年は徐々に対面で民俗行事が増えつつあるが、注目すべきは民俗行事とSNSの関係である。近年のインターネットの普及に伴いSNSを介してのオンライン開催に拍車がかかり、パソコンやタブレットの向こうで非日常空間が共有できるようになった。とはいえ先に述べたように民俗行事は「地域のコミュニティの一翼」であり、いずれコロナが過去の産物となれば民俗行事はかつての賑わいを取り戻すであろう。それが5年後なのか、10年後なのか分りかねるが、人類の歴史は感染症との闘いでもあり、それに立ち向かう人々の想いはいつの時代も変わらない。

本論では個々の家庭に訪問する風習が現代に受け継がれている民俗行事が、コロナ禍でどのように行われているのかに注目し、今後も起こりえるパンデミックに備え「withコロナ」を考えることを目的とする。

2 研究の対象

本稿はナマハゲ、ハロウィン、クランプスの3つの民俗行事を対象とする。共通点がないように見えるこれらの民俗行事は根底に深い繋がりがある。

民俗学を表示するフォークロアという語は19世紀半ばにイギリスで作り出された。民俗学は民族や国家を枠組みとせず、キリスト教世界さらには人類全体を対象とするイギリスの民俗学と、民族の伝統や特質を歴史的に明らかにしよ

うとするドイツやオーストリアの民俗学に大きく別れた。柳田国男は19世紀から20世紀初頭に展開したヨーロッパの民俗学や人類学を学びつつ独自の民俗学を完成させたといわれる。⁽³⁾ キリスト教がヨーロッパに広がる以前より存在している先住民の、自然と共に生きる過程で見いだした教訓が移民によりアメリカに渡った。近年になりハロウィン、クランプスがアメリカから日本へ伝わっている。日本にはそれらが伝わる遙か遠い昔よりナマハゲやアマメハギなどの来訪神の言い伝えがある。伝承が生まれた土地が異なっても人間が自然から恩恵を受けるだけでなく、与えられる試練を畏怖に置き換え神として崇めてきたと言って良い。

先に述べた3つの民俗行事には戸別訪問の他、「季節の変わり目」「来訪神」「社会的適応」が共通している。世界中の伝承には異界との交流が多く語られ、季節の切れ目に異界は開かれると信じられている。

異界から訪れる来訪神は異人とほぼ同義語として用いられ、折口信夫はそれらの異人をマレビトと命名した。⁽⁴⁾ 異人は季節の変わりに当たる冬至に姿を常世に現わす。厳しい冬の始まりに、社会環境に応じて生きる術をまだ知らない子どもたちは異人すなわち来訪神から様々なことを学んだ。

社会環境とは、単なる物理環境や自然環境ではなく、独自の文化や規範で構成された意味世界を指し、様々な種類や位相が存在する。それぞれの社会にはそれぞれに期待される役割があり、人間や集団はその関係に参入することで社会内における自らの正当性を確保する。そのため、そのような関係から外れるふるまいは罰や矯正の対象となる。⁽⁵⁾ 文化、社会、環境に相違はあれども、自身が置かれた社会環境に適応していくことはいつの時代も求められている。時代を経てこれらの民俗行事の意味は変化しているが、根底にある教えは形を変えて今日に受け継がれている。仮面・仮装の神々として2018年にユネスコ無形文化遺産に登録された日本各地に点在する来訪神の中でも最も広い地域で行われているナマハゲと、日本で民俗行事として定着しつつあるハロウィン、そしてナマハゲと類似性があるクランプスについて概要を踏まえ、今後も起こりえ

るパンデミックに備え民俗行事の在り方を考えてみたい。

3 新型コロナウイルス感染拡大の経緯（2019－2021）

コロナウイルスはこれまでに50種類以上見つかっており、人に感染するのは内6種類である。2019年12月以降世界中で流行しているコロナが新型コロナウイルスと呼ばれるのは、人に感染する7種類目のコロナウイルスから由来している。

2019年12月に中国・武漢市から感染が確認された新型コロナウイルスについて世界保健機関（WHO）は、2020年1月30日、新型コロナウイルス感染症について、「国際的に懸念される公衆衛生上の緊急事態（PHEIC）」を宣言した。⁶⁾ 感染拡大を懸念し各国で都市封鎖が相次いだ。感染の勢いは止まらず世界各国に感染が広がった。その後ワクチンが開発され接種が進んでいるが、2022年11月の時点で有効な治療法はまだ確立されていない。

日本でコロナの感染者が確認されたのは2020年1月15日（同日夜に確定診断・翌16日にWHOへ症例の発生を通告）である。患者は武漢に滞在中に発熱し、帰国後検査を受けたところ陽性反応が出た。2020年1月30日に政府による「新型コロナウイルス感染症対策本部」が設置され、小学校・中学校・高校などへ臨時休校が要請された。緊急事態宣言が発令されて以降、企業はリモートワークへの移行に追われ、教育機関もオンライン授業（遠隔授業）の導入が相次いだ。

コロナの影響により全国各地で祭りの規模の縮小、取りやめが相次いだ。夏を迎えるために行われる民俗行事の多くは疫病対策を目的としている。そのような祭りで人が集まり密になっては集団感染の恐れがあり、各自治体や主催団体は苦渋の決断を迫られた。民俗行事はその特別な日のために数々の下準備をして開催に至るので、開催期間が空いてしまうと次世代へ伝統が引き継がれにくくなる。2021年は前年の状況を踏まえ、感染症対策を行った上で対面式の民俗行事も少しずつ増えているが、状況がいつどのように変化するか先が見込めずパンデミック前と同水準の開催とはいかないだろう。

4 コロナ禍の民俗行事 ナマハゲ

(1) ナマハゲの概要

男鹿のナマハゲは秋田県の男鹿半島一帯で傳承されている小正月の行事である。現在は晦日の晩にハマハゲと稱する来訪神が人里を訪れ、集落の家々を巡り歩き新年を祝福する。

昭和20年代(1945～1954)までは、小正月(1月15日)に行われていた。⁽⁷⁾後にナマハゲ等の正月行事は大きく二つに分かれた。元日を中心とする大正月と1月15日を中心とする小正月である。小正月の訪問者は歳神として農耕神と先祖神という性格を備え、来訪して祝福を与える来訪神であった。来訪神が訪れる日は1年で最も重要な日であり、1年の境目、節目にあたる。⁽⁸⁾下野敏見は日本の来訪神をヤマト文化圏(トカラ列島以北)は冬期出現地域、琉球文化圏(奄美大島以南)は夏季出現地域と区別している。⁽⁹⁾ナマハゲはヤマト文化圏の冬期出現地域に分類される。

男鹿半島の82集落からハマハゲ行事を調査した「記録・男鹿のナマハゲ」は、1977年当時のナマハゲの習俗が詳しく記載されている。ハマハゲ役を担うのは若者が中心で25歳前後迄、30歳前後迄と年齢制限を設けている集落は50を超えていた。かつては厳守されていた未婚の若者という条件が担い手不足により、既婚者でも構わないとする集落が16集落あった。⁽¹⁰⁾

昭和50年代に行われた調査でハマハゲの担い手不足が浮き彫りになっており、少子高齢化の影響もあり、今となっては50代～60代で現役のナマハゲを担う地元民も珍しくはない。

小松和彦の取材によるとナマハゲに追いかけられたかつての子どもたちが大人になり懐かしそうに当時を振り返っている場面がある。「今思えばみんな教育だった。社会を知ることにもつながるんだと思う」と、このように子どもの頃にナマハゲに追われた体験をした地元民は語っている。⁽¹¹⁾

子どもから大人へ成長していく過程で社会環境に適應する力を身につける。それは強制ではなく、子どもたち自身が体験し学ぶことに意義がある。

来訪神であるナマハゲを前に「よい子にしています」といってもナマハゲには全てお見通しだそうだ。事前に子どもがいる家々をナマハゲは把握し、親から子どもたちがここ一年でどんないたずらをしたか記載された「なまはげ台帳」が渡されている。それを知るよしもない子どもたちは「良い子にしてる」と答えても、ナマハゲに嘘を見抜かれ驚愕する。見慣れぬ恐ろしい容姿もあり驚き、親の元に逃げる。ナマハゲは子どもたちに近づき「よい子になるか?」「来年も様子を見にくるぞ」と約束をする。一見荒療治に見えるが、子どもたちを思う優しいナマハゲだからできる社会的適応を身につける行いである。しかし、社会の変化にともないナマハゲの存続そのものに影響が及んでいる。迎え入れる側は「大晦日は家族でゆっくり過ごしたい」「集合住宅だからナマハゲを上げたくない」と現実的だ。

続いてナマハゲの装いであるが、地域によって差はあるものの大まかに次の通りである。

ナマハゲの象徴である面は集落ごとに独自の面が伝えられている。木の皮やザル、ケヤキやスギなどの木を彫ったりして作られており、最近ではプラスチック製のものも使われている。大晦日が近づくと神社や公民館に人々が集まり色紙を張り替え、壊れたところを修繕している。ナマハゲの衣装はテゲ、ケダシ、ケンデ、ケラミノ、ケラとも呼ばれ藁でできた簀と笠で神に扮するために着用する。手にしている出刃包丁は怠け者のナモミ（火斑）を取り除くと言われている。脚にはハバキという藁でできた脛あてを巻く。ナマハゲが身につけているハバキは他所からきた神、つまり来訪神であることを指す。そして雪の中を歩くのに適した藁靴を履いている。⁽¹²⁾

ナマハゲが家に上がった際にケラから落ちた藁は厄払いのご利益があるので一本一本大切に拾われる。縁起物として重宝され、身体の悪いところに巻き付けると良くなるという。しかし新年を綺麗な家で迎えたい家主としては何も落とさずに帰って欲しいのが本音であり、コロナが拡大する以

前よりナマハゲの戸別訪問を拒む理由に繋がっている。また男鹿半島には家に招かずともナマハゲを見られる観光行事がある。なまはげ柴灯まつりと呼ばれる男鹿市北浦の真山神社の神事である柴灯祭と伝統行事である男鹿のナマハゲを組み合わせた行事である。終盤に松明をかざしたナマハゲが雪山から下山し、観客が溢れる境内でクライマックスを迎える。会場は幻想的な雰囲気に包まれ、ナマハゲを一目見ようと多くの観客が県内外から訪れる。例年2月の第2土曜を含む金・土・日に開催される。⁽¹³⁾

稲雄次が男鹿市北浦真山在住の明治生まれの古老への取材によると、時期は定かではないがナマハゲ行事と柴燈護摩の行事を鬼と共通項として解釈した里の大屋（オヤケ）や肝煎達が混同してしまったことがあるという。⁽¹⁴⁾ なまはげ柴灯まつりの正確な起源は定かではないが、面や衣装が異なる男鹿各地のハマハゲが一堂に集まる貴重な機会である。

(2) コロナ禍中のナマハゲ 2020年～2022年

秋田魁新報によると2020年の年末の時点で、2021年2月の新型コロナの感染予防のため民俗行事を中止する町内が相次ぐと報じている。⁽¹⁵⁾ また、男鹿市によると市内の93からの町内会のアンケートの結果、新型コロナの影響で29の町内会が中止を決めたことが分かった。理由は「留学生や大学生をナマハゲに招いており感染防止対策を取れない」「県外からの参加者を除いた実施は難しい」などだった。感染症対策を講じた上で開催すると回答した町内は、面の下にマスクを着用する、家の中に入らない、ナマハゲ役は飲み物を貰わない、などが挙げられた。男鹿市は面の消毒や各家庭への訪問時間の短縮が盛り込まれたガイドラインをまとめ、「対策を取りながら安全にナマハゲを実施してほしい」と話している。⁽¹⁶⁾

2022年2月の開催は約6割の町内会が中止している。2年連続で中止を決めた町内会は県外から帰省する若者が例年ナマハゲ役の大半を占める上、迎え入れる側は高齢者世帯が多いため、感染リスクがあると判断した。

コロナ禍中の民俗行事 菅根

ナマハゲを待ち望む人もおり「家にあげて雄叫びを上げるハマハゲを、必ず再開したい」と中止を決めた町内会のナマハゲ行事の担当者は新聞社に語っている。⁽¹⁷⁾ 後世にナマハゲを継承したい想いは各町内同じであり、コロナの収束を強く願っている。しかし、家に上がる行為そのものがコロナの感染リスクがあり、主催者側は厳しい判断を迫られていた。

なまはげ柴灯まつりは2020年、2021年そして2022年も開催された。事前に入場者の人数制限を行い、屋台を設けない、大画面を設営しパブリックビューイング、などにより三密を避ける感染防止対策が施された。

筆者が取材のため2022年2月下旬に男鹿市の真山神社に訪れた際、境内の広場には炊かれた柴灯火の跡がまだ残っていた。男鹿市在住の男性によるとコロナ禍にも関わらず想定を大幅に上回る申し込みがあったという。「家にハマハゲが上がるのは嫌だけどね。家に土足で上がられるから汚れるし。でも皆ナマハゲを見たがっているんだよね」と語った。

SNSではナマハゲの魅力を配信するJR東日本とオマツリジャパンが提携し、祭り留学でナマハゲを知るオンラインツアーのWebサイトがある。第4回目で「伝統文化である男鹿のナマハゲを、未来に伝えていこう!」と活動する若者を紹介し、ナマハゲの魅力を伝えている。⁽¹⁸⁾ 多くの人にナマハゲを知って貰おうと若者が立ち上がっているのは、伝統を存続させたい想いであり、そのためのツールとしてSNSが活用されている。これらはコロナが落ち着いてからの観光客の誘致にも繋がり、地域経済への貢献にもやがて繋がる重要な下準備でもある。

5 コロナ渦中での民俗行事 ハロウィン

(1) ハロウィンの概要

ハロウィンの起源は万霊祭と呼ばれるケルトの祭サウィンにある。ケルト暦の新年は、厳しい冬の第1日目に当たる今日の太陰太陽暦の11月1日と言われる。前夜の大晦日である10月31日の日没から始まるサウィンの夜

に「死と生」を隔てている壁が破られ祖先と死者がこの世に戻ってくると信じられていた。元々サウィンは先祖の霊や親しかった死者を家に招き入れてもてなし供養する冬の始まりの夜を指していた。⁽¹⁹⁾今日の北ヨーロッパを中心にヨーロッパ一帯に居住していたケルト民族がルーツとされるこの民俗行事の起源は2500年以上前とも言われる。⁽²⁰⁾

サウィンの日の夜に、地下の死者の魂が死者の神に導かれ、この世に妖怪や祖霊として出現したという。これは異世界からの異邦人、つまり来訪神を意味する。サウィン祭に由来するハロウィンは、現世と異界が交わる時であり、同時に人間も異界に行くことができた。時間の流れを越えて過去と未来への扉が開かれ、この世と一体化する不気味な時でもあった。

時代を経てキリスト教とこれらの信仰が交錯しハロウィンの様相は変化した。現代の行いにはこれらの伝統の名残がある。16～17世紀頃よりハロウィンは一部の移民によりアメリカへ伝わっていたが、更なる広がりを見せるには19世紀まで待たねばならない。

(2) ヨーロッパのハロウィン

厳しい冬が始まる前に冬支度が必要であり、今日のように農業が発達していない時代は食糧も家畜用の餌も限られていた。必要最低限の家畜を生かさないと越冬できないので、大切に育てた家畜を選別せざるを得なかった。選別された家畜を塩つけにした保存食は年越しの貴重な食糧であった。恵みを与える自然の神々に感謝し、大がかりな炎を囲み冬至を過ごす大人達を見て、子どもたちは自然の厳しさや偉大さを学んだ。ハロウィンを経て子どもたちは冬を乗り越える社会的適応を学んでいたと考える。

やがてキリスト教がヨーロッパに広がると、キリスト教の教えとハロウィンの風習が融合した。ハロウィンの本来の意味が薄れ、様々なキリスト教的習わしも加わるようになった。その1つがソウリングである。ソウリングとは小麦粉を主原料としたドライフルーツ、シナモン、ナッツ類が

入った丸く平たいソウルケーキ（魂のケーキ）を配る風習を指す。

中世以降、ハロウィンの時期に、恵まれない人への寄付が行われた。クリュニー修道院（フランス）の修行僧達が貧しい人々に食べ物を作り、村人達に死者の霊を祈るように呼び掛けた。貧しい人々、特に子どもは家々の戸を叩き、その家の先祖の魂へ祈りを捧げる代わりに食べ物やお金を貰っていた。家々ではソウルケーキを焼く習慣が生まれ、ソウルケーキをもらって回ることがソウリングと呼ばれた。次第に死者の魂のために祈る厳粛な行為に、歌ったり踊ったり詩を読む娯楽の要素も加わっていく。⁽²¹⁾

リサ・モートンは、お菓子などの嗜好品が手に入りやすくなった第2次世界大戦後にアメリカでトリック・オア・トリートが全国的に広まったとしている。そのトリック・オア・トリートに類似しているのはベルスニクリングと呼ばれたクリスマスの風習であった。ベルスニクリングとはアメリカ東部からカナダで行われていた風習で、仮装した参加者の一団が家々を回り小間物類を差し出して食べ物や飲み物と交換した。カナダ南東部のノバスコシア州では、ベルスニクリングの参加者はわざと幼い子供たちを怖がらせ、いい子にしていたかどうかを尋ね、その後で何かしらの食べ物を振舞われた。これはトリック・オア・トリートの風習がクリスマスに行われた類似の風習に由来していると指摘している。⁽²²⁾ 恐らくソウリングに娯楽の要素が加わり、キリスト教の影響もありトリック・オア・トリートへ変化したのではないかと考えられる。

今でこそ科学が発達し説明がつく自然現象は、当時の人々からすれば力の及ばぬ「何か」であり、それらを精霊・招かざる悪霊に転嫁していた。精霊や悪霊から逃れるために動物の仮装をして「自分は人間だ」と悟られないようにハロウィンの夜を過ごす人々もいたのであろう。ヨーロッパからの移民によりアメリカに伝えられたハロウィンは、世界情勢とアメリカの産業に影響されながら本来の意味が変化していった。

(3) アメリカのハロウィン

16世紀のヨーロッパでは、宗教改革の影響のため、キリスト教の中で対立が起きていた。その一部のキリスト教徒であるプロテスタントの人々がアメリカへ移民として流れた。ニューイングランド州では、ハロウィンに否定的なプロテスタントの移民が多かったため、ハロウィンはごく一部に限られて行われた。一方、アメリカのメリーランド州から南部にかけて徐々にハロウィンが広がった背景には、アメリカのイギリス領植民地の中では、信教の自由について先駆的な位置付けだった地域が、メリーランド州であったということが考えられる。

ヨーロッパからの移民がもたらした慣習と、アメリカの原住民の信仰や風習と融合されるにつれ「アメリカ版ハロウィン」が現れた。即ちハロウィンに収穫を祝うために開催された公のイベントの中で一層娯乐的な要素が強まったのである。集まった人々は先祖の話を語り、お互いの運命の話をし、踊り、歌い、非日常の時間を共有する日となったのであろう。

ハロウィンが急速に広まったのは19世紀中頃で、アイルランドやスコットランドからの移民が増えた時期である。スコットランドでは18～19世紀初めにかけて深刻な飢饉に襲われた。いわゆる「ジャガイモ飢饉」である。小作人達が地主に追い出され、已む無くカナダやアメリカへ移住した。アイルランドとスコットランドから移民が大勢移り住んだことでハロウィンが一気に広まった。

リサ・モートンは、移民がハロウィンの悪戯の風習も一緒に伝えたと言っている。アイルランドでは男の子たちが不気味な顔をカブに刻み（ハロウィンに欠かせないジャック・オ・ランランに地元の産物であるカブが使われている。アメリカではランタン向けに品種改良されたカボチャを使用している）、騙されやすそうな旅行者を怖がらせた。スコットランドではキャベツの芯に喫煙しそれを見知らぬ他人のドアの鍵穴に押し込み、家主が帰宅すると家の中が悪臭で満たされていることに気が付く等、不快ない

コロナ禍中の民俗行事 菅根

たずらが行われていた。18～19世紀頃は田舎では軽度ないたずら程度だったが、大都市に広まるにつれ人的被害に及ぶまでに悪化していく。世界レベルで世の中が荒れるといたずらが更に悪化し、人体に危害を及ぼした事件も起きた。こうした危機的状況を回避するため、1930年代に市民や宗教当局、地域団体、近隣の家族は、子どもたちがいたずらを行わないようにハロウィンでパーティーやカーニバル、衣装パレードを計画・実行した。⁽²³⁾

これらは不安定な世相が子どもたちの精神に悪影響を及ぼしていたと考えられる。子どもたちは自身が感じている不安な気持ちを紛らわすために悪戯を行い、時流が悪化するにつれ悪戯がエスカレートしたのであろう。そのはけ口をいたずらではなくハロウィンのイベントに向けさせ、過度ないたずらを沈静化しようとした。ハロウィンのお化け屋敷が流行したのも、お化け屋敷というアクティビティに気をそらさせ、行き場のない不安な気持ちを分散させる狙いがあったと思われる。

やがてハロウィン・パーティーで仮装する衣装の販売が広まり、戸別に訪れる子どもたちへ渡す食べ物が果物や手作りのお菓子から既製品のお菓子へ変わっていった。第2次世界大戦後、アメリカで制限されていた砂糖の供給が安定するとお菓子メーカーは販路を拡大し、ハロウィンに市場価値があると気が付いた企業がこぞってハロウィンの関連商品を発売するようになった。前述したトリック・オア・トリートがアメリカ全土に広まったのはこの頃からである。

アメリカではハロウィンはクリスマスに継ぐ2番目に大きなイベント市場となった。本来の季節の変わり目の民俗行事の意味合いは薄れてはいるが、地域のコミュニティの絆を深める民俗行事としての意味が加わり、地域の公民館や幼稚園や学校等で大人と子どもたちが集まり年に一度のイベントを楽しんでいる。

(4) 日本のハロウィン

1970年代に玩具・雑貨店「キデイランド原宿店」が季節のイベントとして、ハロウィングッズの販売に注力し始めた。1983年に、販売促進の目的でハロウィンパレードを開催し約100人が参加した。これが日本で最初に行われたハロウィンパレードであるといわれている。当時の日本ではハロウィンの認知度が低かったため、このパレードは大きな注目を集めた。1997年には東京ディズニーランドがハロウィン仮装パレードをアトラクションに取り入れると認知度が急速に高まった。⁽²⁴⁾ 全国各地でイベントが開かれるようになり、秋の一大イベントとして定着したのは最近である。

残念ながらここ数年の日本におけるハロウィンは若者が問題を引き起こす負の側面も取りざたされている。渋谷や六本木などの繁華街に仮装した若者が、飲酒・泥酔の果てに暴徒化したり、交通の大混乱やゴミ問題を引き起こしたりと若者の迷惑行為が報じられている。⁽²⁵⁾

その一方、街全体でハロウィンを盛り上げ地域の活性化に繋げようとしている豊島区の事例を見てみよう。2014年から始まった池袋ハロウィンコスプレフェスは、日本の代表的なサブカルチャーの一つであるコスプレカルチャーの推進および、首都圏で唯一消滅可能性都市とされた豊島区により、消滅可能性都市全896自治体の応援を目的として開催された。場所はサブカルチャーの聖地として特に若い女性から支持を集めている池袋の乙女ロード及び池袋駅の東口エリアである。ドワンゴ、アニメイトが参画する池袋ハロウィンコスプレフェス実行委員会が主催となり、豊島区、地元の商店街、サンシャインシティなどの協力を得て開催された。⁽²⁶⁾ 同コスプレフェスの参加者の目的は「コスチュームを楽しみたい」と明確である。「コスプレは、ある意味虐げられてきた歴史がある。オタクと偏見も受けてきた。今は表現活動としてやっと認められてきたところで、コスプレできる貴重な場を失ってしまうような事態は誰も望んでいない」と池袋ハロウィンコスプレフェス実行委員長を務める横澤大輔・ドワンゴ取締役COOは

コロナ禍中の民俗行事 菅根

述べている。豊島区の地元住民や商店の理解もあり、多くの店が協力して街全体で盛り上がっていることも要因として大きい。⁽²⁷⁾

このように日本におけるハロウィンとは、若者が非日常的な時間を楽しむ傾向にある。日本で最初にハロウィンのイベントが行われた場所が若者の流行の発信地・原宿ということも要因の一つと考えられる。

(5) コロナ渦中のハロウィン ヨーロッパ 2020年～2021年

イギリス・スコットランド自治政府はガイジング(トリック・オア・トリートの前身)を勧めないとし、同自治政府の副首相は家々を回る行為は更なるコロナ蔓延のリスクが高まると述べた。⁽²⁸⁾ イギリス・ウェールズでは自治政府は防火帯(Firebreak)と名付けた2020年10月23日～11月9日の2週間の短期的なロックダウンを施行し、室内・屋外であろうと他の家族との集まりを禁止し、ハロウィンなど野外集會を禁止等の規制を出した。⁽²⁹⁾ ガイジングは、近隣の家々を回ること特に子どもがコロナに感染する可能性が高い。危機回避の為、公に親世代へガイジングやパーティーそのものを見直すよう釘を刺したのだ。

コロナに関わらず、時代の時勢に応じ、民俗行事は時流を受け入れ変化するものであり、そこには時代の変化に適応する人々の柔軟さがみてとれる。感染症は飛沫や体液に含まれるウイルスにより人から人へ感染するのが原因であると明らかになっている。人々が集まれば集団感染のリスクは高まり、被害の拡大が容易に想定される。いかに感染を防ぎ、年に一度のハロウィンを楽しむか。規制があっても、可能な範囲でハロウィンを楽しむ様々な取り組みが行われている。

例えばイギリス・西部の都市ブリストルではハロウィンの装飾を施した場所が分かる地図(デジタルマップ)が同市の市民らにより作成された。その地図はFacebookを介して広まり、170を超える装飾されたハロウィンの家が地図に追加された。その中には骸骨の乗組員がデザインされた18

フィート（約5.49m）の海賊船もあった。ハロウィンが開催される直近2週間で文字通り雪だるま式に拡大し反響を呼んだ。⁽³⁰⁾

また、2021年の東京オリンピックでも話題になったバブル方式も取り入れられた。バブル方式とは選手や運営関係者を隔離し外部と接触させない方式を意味する。バブル（泡）の膜でとり囲むように、内部と外部を遮断することから、バブルに見立てた車の中から映画鑑賞を楽しむドライブインシアターが開催された。家族は車の中から映画を鑑賞することで社会的距離を保ち、他の参加者と接触を避けながら大画面で映画鑑賞が楽しめる。開催場所は市民の憩いの公園や空港、スタジアムなどの複数の場所で開催された。⁽³¹⁾

各ヨーロッパのメディアではコロナ禍だからハロウィンを祝わないのではなく、仮想空間や最新の技術や工夫を取り入れながら楽しもうとアイデアを募集する呼びかけもされた。コロナ禍ならではの安心安全を最優先にした特別なハロウィンが行われていたといえる。

(6) コロナ渦中のハロウィン アメリカ 2020年～2021年

2020年はアメリカでハロウィンの関連商品の販売が例年より早められた。北米最大のチョコレートメーカーであるハーシーは小売業者と提携して夏頃よりハロウィンの関連商品を準備した。CNNの取材に対し同社は「早めにハロウィンのディスプレイを早く始めた店が増えた。ほとんどの店舗は、通常の8月中旬から9月上旬に始めるよりも2～4週間早く陳列を上げた」と述べ、ハロウィン用のディスプレイ・通路を早く設置すると、売り上げを伸ばすことができると付け加えた。「このコロナ禍では消費者が日常生活で些細な娯楽を求め、日々の生活から少し逃避して楽しもうとする点で、ハロウィン向けのお菓子市場は非常に回復力がある」とNCA（National Confectioners Association、全米菓子協会）の広報担当者は述べている。⁽³²⁾

コロナ禍中の民俗行事 菅根

とはいえコロナ禍であることには変わらない。2020年9月にロサンゼルス市の公衆衛生局は戸別訪問を伴うトリック・オア・トリートは、ベランダや玄関での適切な社会的距離の維持が非常に難しいことを理由に推奨しないと述べた。⁽³³⁾ アメリカの他の地域でもパーティーやカーニバル、お化け屋敷などのハロウィンに関連するイベントを中止または縮小している。

様々な規制に伴いアメリカのハロウィン市場は縮小傾向になると思われたが、NRF（National Retail Federation、全米小売業連盟）が行ったハロウィンの年次調査に興味深い傾向が表れている。アメリカの成人1億4800万人以上がハロウィン関連の行事に参加する予定で、自宅で安全に楽しむが最も高く、53%は自宅を装飾する、46%はカボチャの彫刻をする（ハロウィンに欠かせないアイテムであるジャック・オ・ランタン）、18%は飼っているペットを仮装する予定だという。消費者はコロナ禍において安全で便利なオプションとしてオンラインショッピングをより好む傾向にあり、ハロウィンの関連商品をオンラインで購入することを予定している消費者は2019年の25%に対して2020年は30%に増加している。⁽³⁴⁾ また同連盟の2021年の調査では（調査期間は2021年9月1日～9月8日・回答者8061人）回答者の内45%が9月より以前に、更に39%が10月の最初の2週間にハロウィン関連の商品を購入する予定である。⁽³⁵⁾

ヨーロッパに見られるように、アメリカでも、年に一度の特別な日であるハロウィンを、コロナ禍であっても特別な日にするために出来る限りの工夫をしている。また、仮想空間でハロウィンを楽しむ戦略を講じる企業もある。M&Mやスニッカーズを製造するアメリカの大手製菓メーカーであるマースリグレーは独自の仮想空間「デジタルトリートタウン」を開設した。ユーザーはデジタルトリートタウンに入ると自分で好きなアバターをつくり、仮装空間でトリック・オア・トリートを楽しみ、後日パウチャーを介して実物のお菓子を受け取ることができる。⁽³⁶⁾

ハロウィン市場が大きくなった一方で、コロナ禍であっても人々のハロ

ウィンに対する意欲が極端に減少しなかったことが調査結果に反映されている。コロナ禍で人々が娯楽的な要素を規制された反動から、ハロウィンそのものが民俗行事というより娯楽的な要素を含んだお祭りであることがより明らかになった。

(7) コロナ渦中のハロウィン 日本 2020年～2021年

バーチャル渋谷とは渋谷区が公認する配信プラットフォームで、2020年5月にKDDI、渋谷未来デザイン、渋谷区観光協会を中心とする参画企業で組成する「渋谷5Gエンターテイメントプロジェクト」による立ち上げ様々なイベントを開催している。⁽³⁷⁾

2020年のハロウィン期間中は上記団体を中心に「バーチャルハロウィーン実行委員会」が結成された。バーチャル渋谷内で10月26日～10月31日に、「#StayVirtual」を合言葉に新しい時代に沿ったバーチャルイベント「バーチャル渋谷 au 5G ハロウィーンフェス」を開催した。⁽³⁸⁾ また、同委員会よりコロナの影響や感染防止の観点からハロウィンの期間中は渋谷区への来街自粛も呼びかけられた。

2021年10月16日～10月31日の期間中は「バーチャルハロウィーンフェス 2021」が開催された。バーチャル渋谷の中央にはハロウィン限定のオフィシャルショップも登場し、その収益は渋谷未来デザインを通じ、渋谷区に還元されている。⁽³⁹⁾

しかし渋谷区の自粛の呼びかけにも関わらずハロウィン当日に渋谷駅周辺に若者が集い、マスクを外して騒ぎたてていた。⁽⁴⁰⁾ 現地での参加を控えオンラインでハロウィンを楽しむ人々がいる一方、若者のイベントと化した日本のハロウィンのモラルが問われた日だった。

豊島区はコロナの感染状況を鑑み、ステージイベントやパレードなど例年通りの規模での実施は困難と判断し「池袋ハロウィンコスプレフェス 2020」を中止した。代わりに同年10月31日17時より、同イベント初のオン

コロナ禍中の民俗行事 菅根

ラインイベント「池袋ハロウィンコスプレフェス ONLINE コスプレ大感謝祭 2020」を開催した。⁽⁴¹⁾

2021年は「池袋ハロウィンコスプレフェス2021」が感染症対策を講じ、対面で開催された。3密を避ける為、全ての券種についてチケット枚数を限定して販売し、パレードは中止となり、例年に比べかなり規模を縮小しての開催となった。⁽⁴²⁾ 2021年の同イベントの取材に訪れた甲村綾香によると、イベントの参加者は自身の好きなキャラクターの衣装を着て、参加者同士で写真を撮影し、マスクを着用した上で談笑していたという。「ハロウィンという特別な日にいつもとは違う自分でいたい。コロナ禍であっても、ハロウィンの日は同じ目的をもった仲間達と楽しい一時を過ごしているようだ」と参加者達は語っている。印象的だったのが参加者の衣装がアメリカのハロウィンの衣装で人気の高いお化けや魔女の衣装ではなく、2021年に流行っていた「鬼滅の刃」や「呪術廻戦」などのアニメや漫画、ゲーム、ヒットした映画のキャラクターに扮していることだった。かつて異界からの来訪者から身を守るためにハロウィンの日は特別な衣装が着られたが、日本ではコスプレ文化と融合し、普段とは違う自分になれる特別な日となっている。

6 コロナ禍中の民俗行事 クランプス

(1) ヨーロッパのクランプス

キリスト教以前のヨーロッパの祭りは、季節の移り変わりや連動して行われていた。ヨーロッパの冬至祭にも日本のナマハゲに似た怪物や鬼が登場し豊穡を授けていたので、これは一種の来訪神信仰と解釈されている。クリスマスの日にも土着信仰の風習を残すパフォーマンスが行われている。⁽⁴³⁾

その一つがクランプスと呼ばれる主に東～中央ヨーロッパに古くから伝わる羊または狼との半人半獣の獣人だ。起源は諸説あるが、キリスト教が

ヨーロッパに広がる前の土着信仰説が最も有力である。キリスト教が広まり聖ニコラウス（キリスト教の聖人の一人・サンタクロースのモデル）の付き人として12月6日の聖ニコラスの日、または前日の12月5日に人里へ訪れる。

この長年の伝統を尊重する地域では、16歳の少年がオーストリアではバス、ドイツではバスと呼ばれるクランプスのグループに属することができる。一度結婚すると、限られたごく一部の地域ではあるが、グループから抜けることになる。⁽⁴⁴⁾元々はサンタクロースの付き人ではなかったが、キリスト教がヨーロッパに広がりクランプスと融合し、聖ニコラウスの付き人として考えられた。

クランプスの装いは次のとおりである。身体に動物の毛皮（または人工の毛皮）を纏い、白樺の枝を束ねた鞭を手に持っている。ナマハゲを彷彿させる手彫りの面にはヤギや羊の角が装着されている。



画像：2019 KRAMPUS RUN: RED HARE IMAGES (KRAMPUS LOS ANGELES)

親のことを聞かない子どもはクランプスが背中に背負っている籠に入れられて攫われてしまうという言い伝えがあり、現在でも籠を背負っているクランプスがいる。カウベルが鳴ると悪霊を追い払うと信じられている為、腰に幾つものカウベルを身に着けるクランプスもいる。ナマハゲと同じように、クランプスもそれぞれがいる地域の特性にあわせて衣装も若干異なる。^{(45) (46)}

見た目は怖いのが心優しい、悪い子を正す役割を持つクランプスは、子どもたちに社会的適合を説く教育者としての役割を持つ。

ドイツでは伝統としてバスの中から聖ニコラウスに少なくとも3人のクランプスが付き添う。⁽⁴⁷⁾ 一行は家から家へと訪問し、聖ニコラウスは子供達に良い子にしていたか質問をする。クランプスは事前にそれぞれの子の親から子供達がその年に何をしたのか書かれているカンニングペーパーを受け取っている。これは先に紹介したナマハゲと同様である。仮に「いい子にしています」「言いつけを守っています」と子供達が言っても、クランプスは事前に情報を知っているので「嘘をついている」ことが見抜かれ、子供達は目を丸くして驚く。お仕置きでクランプスに抱えられ家の外連れ出される子は、手を伸ばして親に助けを求め、中にはクランプスの姿に驚き過ぎて目を見開き呆然とする子もいる。これらの子供達の反応もナマハゲに見られる光景である。クランプスの目的は子供達の社会的適合であり、「良い子にする」と約束した上で親元に帰される。聖ニコラウスは良い子にも、良い子になると約束した子にも分け隔てなくご褒美の贈り物を渡してくれる。道案内役のエケハルトがラッパを吹くと、それを合図に一行は次の家へ向かう。

かつてクランプス一行は村の家々を巡っていたが、クランプスが暴れ出すと食器や電灯、家具などを壊してしまうため、今では公民館などに集まりそこに招くようにしている。⁽⁴⁸⁾ なまはげにも共通しているが、大家族

から核家族へと家族を構成する人員が縮小したのに伴い、来訪神を受け入れる家が少なくなっている。多くの地域では伝統的なクランプスの来訪が見られるのは少なくなり、小さな集落や地元の村や限られた地域でしか見られない。やがてクランプスはイベント化し、2000年以降に再び光が当てられるようになる。

(2) アメリカのクランプス

聖ニコラウスの習俗はヨーロッパでクリスマスにプレゼントをくれるサンタクロースに変容し、18～19世紀頃にヨーロッパからアメリカへ渡った移民によりサンタクロースも伝わった。現在のサンタクロースのイメージ、ぽっちゃり体型のおじいさんが8頭のトナカイが引く橇に乗ってやってくる、煙突を通して部屋に入ってくるなどには、クレメント・クラーク・ムーアが著した「聖ニコラスのご来訪」という詩に影響を受けている。その詩はアメリカ中に広まりやがて絵本として出版されるようになった。⁽⁴⁹⁾

アメリカではサンタクロースの付き人としてのクランプスは暫く姿を見せなくなったが、2000年代に入り注目されるようになった。アメリカのアートディレクターがコレクターより19～20世紀のクランプスの絵葉書を紹介されたのをきっかけにクランプスに興味を持たれるようになった。後にアートディレクターは自身が発行する雑誌にクランプスの絵葉書を紹介し、2004年と2010年には、それらを集めた本を出版した。1冊目の本を出して間もなく、アートディレクターにカリフォルニア州のサンタモニカにあるギャラリーのディレクターより、クランプスの絵葉書の展示会を開催したいと話が持ちかけられた。展示会は非常に成功し、その頃からクランプスの人気が高まっていった。⁽⁵⁰⁾

人気はアメリカの国内だけではなく隣国のカナダにも広がり、2015年にはクランプスをモチーフにしたサスペンスホラー映画も公開された。⁽⁵¹⁾ テレビ番組、広告、グリーティングカードに悪魔のようなクリスマスキャ

ラクターのクランパスが登場したことで、ヨーロッパの民間伝承がアメリカの文化に再び訪れたものと考えられる。クランパス関連のイベントやパレードはアメリカやカナダ、ヨーロッパで行われており、開催される回数も増加傾向にある。⁽⁵²⁾ 12月のホリデーシーズンを祝う祭に登場するキャラクターとしてアメリカにおいて徐々に定着しつつある。クランパスは、文化人類学の父・エドワード・バーネット・タイラーが唱える「人間、動物、植物、天体などの万物に靈魂が宿る」とするアニミズムに基づき信仰されている。聖ニコラウスのお付き人としての役割の他に、聖ニコラウスの兄弟として伝えられている。聖ニコラウスが飴を与えればクランパスは鞭と対照的な言い伝えが今でも残っている。一神教のキリスト教がヨーロッパに広がり、アメリカやカナダなどの大陸に伝わっても、その根底にあるクランパスにまつわる土着信仰は消えずに存在していると言えよう。人の力が到底及ばない自然の厳しさを来訪神として可視化した姿は、恐ろしい風貌ではあるがその畏怖がどこかミスリアスでクールに感じられたのであろう。

アメリカでもクランパスに魅入られた人々により、クランパスに仮装した人々が集うクランパスパレードが各地で開催されている。⁽⁵³⁾

(3) 日本のクランパス

日本では知名度が低いクランパスだが、クランパスを見られるイベントがある。「クランパス de 地域活性プロジェクト!」を合言葉に、東京板橋区の中小企業の社長がクランパスジャパンとして立ち上げたプロジェクトの一環で、12月上旬にクランパスのパレードが開催される。2015年から始まり、板橋区の志村銀座商店街である通称「しむらん通り」、そして同年に日比谷公園で開催された「東京クリスマスマーケット2015」にも参加している。同社長がクランパスの魅力を知ったことをきっかけに文化継承と地域活性化を目的にクランパスジャパンを発足した。メディアからの反響もあり2018年から怖福（こわふく）なクリスマスを日本に根付かすための

クランプスジャパンプロジェクトが始動した。⁽⁵⁴⁾

コロナが蔓延する直前の2019年第5回クランプスパレード&オーストリア物産展2019では過去最高の1600人が来場した。

(4) コロナ渦中のクランプス 2020年～2021年

2000年代初頭からヨーロッパではクランプスの伝統を生かしたイベントが開催されるようになった。⁽⁵⁵⁾

クランプスパレード、またはクランプス・ランと呼ばれるイベントである。観光客はグリューワインを片手にクリスマスピラミッドや、キリストの降誕セットが売られている煌びやかなクリスマスの装飾に彩られた屋台を歩きながらクランプスの出番を待つ。地元住民は大人から子どもまでクランプスや聖ニコラウス、天使、その他の伝承にまつわるキャラクターの衣装に身をつつみ、街の大通りを練り歩きイベントは最高潮を迎える。

これらのクランプスのイベントは町おこしの一環としての意味合いが強い。その背景にサステナブル（持続可能）が潜んでいることを忘れてはならない。⁽⁵⁶⁾ 19世紀後半から、水質、大気汚染、地球温暖化、などの環境問題が浮き彫りになった。環境を破壊することなく、未来の世代に負債を残さないような社会を実現するための取り組みが世界中に浸透し、その中でもヨーロッパはいち早くサステナブルに取り組んでいる。環境保全を考慮した開発は自ずと自然と向き合ってきた古代の信仰に目を向ける契機となり、クランプスが自然と共に生きる人々の想いを継いでいることが再認識されたのである。

ところが2020年以降よりヨーロッパでコロナの感染が急速に拡大し⁽⁵⁷⁾、都市封鎖や行動規制が相次ぎ2021年も感染状況が見通せない状況であった。

そのため、2020年～2021年はクランプスパレードやクランプスランが相次いで開催を見送られた。例えばオーストリアのタルレンツ、インスブルック、ザルツブルク、ドイツのミュンヘンなどが2020～2021年の開催

コロナ禍中の民俗行事 菅根

を見送られている。2022年は開催予定であるが感染状況によって開催の規模がコロナ前と同等になるかは現時点では不明である。^{(58) (59) (60)}

1980年より活動しているドイツのバイエルン州に拠点を構えるKrampus gruppe Haiming（クランパスグループ・ハイミング）は2020年に記念すべき40回目のクランパス・ランの開催を予定していたが、コロナの感染状況を考慮し中止された。代わりに過去のクランパスランの映像を編集した「デジタルハイミンガークランパスラン」を作成しSNSで公開している。また、聖ニコラウスの訪問がキャンセルされたため、子どもたちに向けてビデオメッセージを作成し公開している。今年は聖ニコラウスとクランパス等の一行が家に直接来られない理由とプレゼントを玄関先に置いておく理由を説明している。残念ながら2021年も対面式のクランパスランは見送られた。⁽⁶¹⁾ オーストリアの放送・メディア製作会社Antenne Steiermark（アンテナスティリア）は2020年にクランパスランの開催が中止になった代わりに、オンライン・クランパスパレードを動画サイトにアップしている。⁽⁶²⁾

各主催者は、2022年は町を活気つけるためにも開催したいと前向きな意向であり、ヨーロッパの旅行サイトやクランパスの各団体は2022年春頃からクランパス関連のイベントの告知を行っている。ヨーロッパは陸続きであり、どこかのエリアで感染拡大すると広まるのも早い。コロナのワクチン接種が進んでいるとはいえ、引き続き主催者側も何らかの対策を講じた上での開催を求められるだろう。

(5) コロナ禍中のクランパス アメリカ 2020年～2021年

アメリカでもヨーロッパと同様にクランパスパレードを見送る団体が幾つもあった。その中で感染性対策を施し、コロナ禍ならではのクランパスパレードを行った団体がある。アメリカで最大級のクランパスパレードを行うルイジアナ州のニューオーリンズにある芸術団体のKrewe of Krampus

(クルーオブクランプス)だ。⁽⁶³⁾

同団体が2020年12月6日に開催したドライブスルーパレードは、バブル方式を取り入れ、観客は車の中から社会的距離を保ちながらパレードを鑑賞できた。一方通行の表示に従い車はゆっくり沿道を進み、その両脇でクランプス、聖ニコラウス、お化けの衣装を身に着けたクルーがダンスを踊り、観客に手を振っていた。パレードは夜に開催された為、闇夜に浮かぶ華やかな装飾と温かな光、そしてクランプスが身に付けているカウベルのチリン、チリンという幻想的な音が観客を魅了していた。インターネットに公開されているパレードの写真に、車の中から籠を背負ったクランプスを見て驚きの表情を浮かべる少年の姿も見られる。⁽⁶⁴⁾

同団体の2022年の新規会員の募集要項によるとコロナのガイドラインに沿って実地で開催されるイベントに参加するメンバーの他、バーチャルメンバーも併せて募集している。参加したくてもイベントの開催地が自宅から遠すぎて行けない、パレードを自宅から安全に楽しみたい要望者向けだ。昨年2021年から新しい360度ビデオへのアクセス、ライブビューイングとバーチャル体験を試験的に行い、今年から本格的に始動している。⁽⁶⁵⁾

このような新規のメンバーを取り込む手法がどの団体の成功事例になるとは限らない。しかし、民俗行事を開催する団体が開催する際に資金難が課題の一つとされるのを考慮すると、新規の参加者の獲得及び継続的な参加が見込まれるオンラインの会員の募集は意味がある。

なまはげでも述べたがSNSを介して情報を逐一発信していくことが、やがてコロナが落ち着いてからの観光客の誘致にも繋がり、町おこしの一環としての民俗行事クランプスに更なる意味を齎すのである。

(6) コロナ渦中のクランプス 日本 2020年～2021年

残念ながら2020年と2021年共にコロナ禍の状況を鑑み、第6回及び第7回クランプスパレード&オーストリア物産展は中止となった。2022年の開

催は未定である。⁽⁶⁴⁾

ヨーロッパでは幅広くクランプスに類似した来訪神が存在し、人々にとって身近な存在である。その影響もあってか芸術家やクランプスのファンにより国境を越えて、クランプスという来訪神を通して新たな文化が生まれている。その一つが日本におけるクランプスであり、その灯がコロナにより分断されるのは大変遺憾である。今後の感染状況により開催に関しては慎重にならざるを得ないが、日本におけるクランプスパレードの再開を心より願う次第である。

7 終わりに

2020年～2021年にかけて新型コロナウイルスが世界中で蔓延し、2022年になり日常生活において人流が戻りつつある。しかし、国境を越えての人々の移動は全ての規制がなくなった訳ではなく、民俗行事においても感染症対策を行いながら工夫を凝らして行われているのが現状であろう。「withコロナ」の時代を迎え浮き彫りになったのは、社会の変遷に伴い民俗行事を担う側の意識の変化である

その意識の変化を「戸別訪問」、「季節の変わり目」、「来訪神」、「社会的適応」が共通事項として挙げられるナマハゲ、ハロウィン、クランプスの3つの民俗行事を例に考察した。

現代でも地域のコミュニティとしての役割も担っている来訪神の戸別訪問は、核家族化、プライバシーの保護、地域のコミュニティの変容に昔に比べて受け入れられにくくなっている。それに代わる民俗行事を行う手段として神社、公共の施設、一定の人数を収容できる広い場所や建物にて地元住民だけでなく観光客も集まるイベント化が進んでいる。しかし、新型コロナウイルスの感染拡大に伴い、2020年～2021年は多くの人々が集まって密になりやすい民俗行事の見直しをせざるを得なくなった。

そこでSNSを活用してオンラインや、仮想空間で民俗行事を体験する手法が急速に台頭した。コロナが感染拡大する以前よりSNSの利用はあったが、非接

触が求められるこの時代にある意味「適した」やり方であり、今後も一定の割合でSNSの活用は見込まれる。とはいえSNSはあくまでも民俗行事を存続する手段の1つにしか過ぎない。民俗行事が時代の変遷に合わせて変化するのは自然の理であり、次世代に繋ぐ為の柔軟な対応が問われた時期でもある。その課題は新型コロナウイルスの感染拡大から3年たった今でも残されているし、人類にとって永遠の課題である。

時代を経てもその根底にある由来や先祖の想いは変わることはない。次世代に民俗行事を残していくためにコロナに限らず今後も起こりえるパンデミックに備え、従来の民俗行事の在り方だけに固執せず、使えるツールは取り入れていく柔軟な姿勢が求められている。民俗行事は人と人と繋ぐ絆をつくる大切な行いである。SNSやバブル方式、新しいツールを上手く活用し、民俗行事を未来へ繋いでいこうとする若い世代や現役世代、地元の人々の想いが「withコロナ」や未来に起こりうるパンデミックを乗り越えていくのである。

本論を作成するにあたり元東洋大学大学院の甲村綾香氏の多大な協力を得た。改めて感謝の意を表明する次第である。

【註】

- (1) 内閣官房「新型コロナウイルス感染症まん延防止等重点措置の終了に関する公示」
<https://corona.go.jp/emergency/> 2022.6.21アクセス
- (2) 小池知事「知事の部屋」／記者会見（令和2年5月29日）
<https://www.metro.tokyo.lg.jp/tosei/governor/governor/kishakaiken/2020/05/29.html> 2022.6.21アクセス
- (3) 福田アジオ『歴史と日本民俗学－課題と方法－』（2016・吉川弘文館）
- (4) 折口信夫『近代浪漫派文庫24 折口信夫』（2005・新学社）
- (5) 大橋薫・望月嵩・宝月誠編『社会病理学入門』（1978・学文社）

- (6) 国立感染症研究所「IDWR 2020年第21号<注目すべき感染症> 新型コロナウイルス感染症 (COVID-19)」
<https://www.niid.go.jp/niid/ja/2019-ncov/2487-idsc/idwr-topic/9669-idwrc-2021.html> 2022.6.10 閲覧
- (7) 平辰彦・上野明信(編)『来訪神事典』(2020・新紀元社)
- (8) 稲雄次『ナマハゲを知る事典』(2019・柊風舎)
- (9) 下野敏美『ヤマト文化と琉球文化』(1986・PHP研究所)
- (10) 男鹿のナマハゲ保存会(男鹿市・若見町)『記録男鹿のナマハゲ 第1集』(1980・秋田活版印刷)
- (11) 小松和彦『村を守る不思議な神様 永久保存版』(2021・KADOKAWA)
- (12) 国土社編集部(編)『都道府県別 日本の伝統文化①北海道・東北』(2014・国土社)
- (13) 男鹿市観光課『秋田県男鹿市総合観光パンフレット なまはげの里男鹿半島』
- (14) 稲雄次『ナマハゲ 新版-民俗選書⑮』(2005・秋田文化出版)
- (15) 「県内市町村ニュース 男鹿市」『秋田さきがけ(秋田魁新報)』2020年12月29日
- (16) 河北新報「ナマハゲ、今年は3分の1が中止 男鹿市町内会アンケート 「感染対策取れない」」
<https://kahoku.news/articles/20201211kho000000049000c.html> 2022.5.18閲覧
- (17) 「ナマハゲ 分かれる判断」『秋田さきがけ』2021年12月28日
- (18) “ナマハゲ”とカタカナで表記する際には神事・神としてのナマハゲを指し“なまはげ”とひらがなで表記する際は観光で用いられる。本稿では各参考資料・サイトの表記に合わせてナマハゲ・なまはげと記載している。
株式会社オマツリジャパン「オンライン問答体験!! ナマハゲの新たな一面を知る”祭り留学”をレポート!」
<https://omatsurijapan.com/blog/oga-matsuririryugaku-1/> 2022.6.21閲覧
- (19) 鶴岡真弓『ケルト 再生の思想-ハロウィンからの生命循環』(2017・筑摩書房)
- (20) Clare Walker Leslie, Frank E. Gerace., *The Ancient Celtic Festivals: And How We Celebrate Them Today*, Inner Traditions, 2020
- (21) マリオン・ポール(著)、西本かおる・蒲池由佳・村上利佳・八木恭子(翻訳)
『マイ・ヴィンテージ・ハロウィン』グラフィック社 2015
- (22) リサ・モートン(著)、大久保庸子(翻訳)『ハロウィーンの文化誌』(2014・社原書房)
- (23) history.com「Halloween Was Once So Dangerous That Some Cities Considered Banning It」

- <https://www.history.com/news/halloween-was-once-so-dangerous-that-some-cities-considered-> 2022.6.12閲覧
- (24) SKYWARD+ 「ハロウィンの発祥とは？起源や意味、世界各地の過ごし方を紹介」
https://skywardplus.jal.co.jp/plus_one/calendar/halloween 2022.5.24閲覧
- (25) 日本経済新聞 「軽トラ横転、カメラが見ていた ハロウィーンの渋谷」
<https://www.nikkei.com/article/DGXMZO38698560X01C18A2CC0000/>
2022.6.11閲覧
- (26) dwango 「10/25、26はコスプレイヤーが池袋をジャック！「池袋ハロウィンコスプレフェス2014」開催決定！～『消滅なんて言わせない！』消滅可能性都市 豊島区が全面バックアップ～」
<https://dwango.co.jp/news/6438496567564133918/> 2022.6.12閲覧
- (27) 東洋経済 「パリピも黙る！「池袋ハロウィン」の超絶進化」
<https://toyokeizai.net/articles/-/142706> 2022.6.12閲覧
- (28) BBC 「Covid: Scots children should stay at home at Halloween」
<https://www.bbc.com/news/uk-scotland-54673808> 2022.6.22閲覧
- (29) ジェトロ 「ウェールズ自治政府、小売店閉鎖など強力なロックダウンへ」
<https://www.jetro.go.jp/biznews/2020/10/1e767f5112983040.html>
2022.6.22閲覧
- (30) BBC 「Halloween and coronavirus: Can we go trick or treating?」
<https://www.bbc.com/news/uk-54180119> 2022.6.22閲覧
- (31) BBC 「Covid in Scotland: Celebrating Halloween 2020 style」
<https://www.bbc.com/news/uk-scotland-54690988> 2022.5.30 閲覧
- (32) CNN Business 「Trick-or-treating is in doubt this year, so Halloween candy is coming early」
<https://edition.cnn.com/2020/08/10/business/halloween-candy-arriving-earlier-pandemic/index.html> 2022.6.22閲覧
- (33) CNN 「Los Angeles backtracks on coronavirus trick-or-treat ban this Halloween」
<https://edition.cnn.com/2020/09/09/us/halloween-coronavirus-los-angeles-trick-or-treat/index.html> 2022.6.22閲覧
- (34) NRF 「Consumers Anticipate New Ways to Celebrate Halloween, Despite COVID-19」
<https://nrf.com/media-center/press-releases/consumers-anticipate-new-ways-celebrate-halloween-despite-covid-19> 2022.6.22閲覧

コロナ禍中の民俗行事 菅根

- (35) NRF 「Halloween Spending Soars as Celebrate Near Pre-Pandemic Levels」
<https://nrf.com/media-center/press-releases/halloween-spending-soars-celebrations-near-pre-pandemic-levels> 2022.6.22閲覧
- (36) VOX 「What's Halloween 2020 going to be like?」
<https://www.vox.com/the-goods/21451615/halloween-2020-masks-trick-or-treating-costumes-candy-canceled> 2022.5.30閲覧
- (37) バーチャル渋谷 「「渋谷区」公認の配信プラットフォーム」
<https://vcity.au5g.jp/shibuya> 2022.6.14閲覧
- (38) PR TIMES 「世界最大級バーチャルフェス、世界中から約40万人が参加。バーチャル渋谷 au 5G ハロウィーンフェス閉幕！」
<https://prtimes.jp/main/html/rd/p/000000025.000048230.html>
2022.6.23閲覧
- (39) MpguLive「「バーチャル渋谷」とは？ アクセス方法や注目スポット、ハロウィーンフェスを紹介」
<https://www.moguravr.com/virtual-shibuya-8/> 2022.6.9閲覧
- (40) The Japan times 「This is Halloween … in 2020 Tokyo」
<https://www.japantimes.co.jp/halloween-shibuya-2020/> 2022.6.14閲覧
- (41) 池袋ハロウィンコスプレフェス実行委員会 「池袋ハロウィンコスプレフェス2020」
<https://ikebukurocosplay.jp/2020/> 2022.6.14閲覧
- (42) 池袋ハロウィンコスプレフェス実行委員会 「池袋ハロウィンコスプレフェス2021」
<https://ikebukurocosplay.jp/> 2022.6.14閲覧
- (43) 浜本隆志（編著）『異界が口を開けるとき：来訪神のコスモロジー』（2010・関西大学出版部）
- (44) WanderInGermany 「Where to See A Krampus Parade in Germany (Krampuslauf and Perchtenlauf 2022)」
<https://www.wanderinggermany.com/where-to-see-a-krampus-parade-in-germany-krampuslauf-perchtenlauf/> 2022.7.24閲覧
- (45) HISTORY THINGS 「Krampusnacht: What Is It, and How Did it Start?」
<https://historythings.com/krampusnacht-what-is-it-and-how-did-it-start/>
2022.7.24閲覧
- (46) Tirol Info 「“Teufel” , “Krampusse” and “Perchten “ in Tirol」
<https://www.tyrol.com/blog/b-arts-culture/teufel-krampusse-and-perchten->

in-tirol 2022.6.2閲覧

- (47) 家に訪問するクランプスの数は地域により異なる。父親や青年達が、自身や近所の子供達を諭すべくクランプスを演じるところもあるが、クランプスを誰が演じているかは秘密にされている。
- (48) 芳賀日出男『ヨーロッパ古層の異人たちー祝祭と信仰』（2003・東京書籍）
- (49) クレメント・クラーク・ムーア（著）、柳瀬尚紀（訳）『聖ニコラスがやってくる！』（2011・西村書店）
- (50) Owlcation 「A Brief History of Krampus in America」
<https://owlcation.com/social-sciences/A-Brief-History-of-Krampus-in-America> 2022.7.24閲覧
- (51) 映画.com 「クランプス 魔物の儀式」
<https://eiga.com/movie/83752/> 2022.6.15閲覧
- (52) Al Ridenour, *The Krampus and the Old, Dark Christmas: Roots and Rebirth of the Folkloric Devil*, Washington, Feral House, 2016
- (53) The TRAVEL 「Everything You Should Know About The Krampusnacht Festival」
<https://www.thetravel.com/krampus-festival-austria-what-is-it/>
2022.6.15閲覧
- (54) クランプスジャパン 「クランプスジャパンプロジェクト」
<https://www.krampus-japan.com/project.html> 2022.6.2閲覧
- (55) Lonely Planet 「Why the Krampus parade is a Munich holiday you don't want to miss」
<https://www.lonelyplanet.com/articles/krampus-run-munich> 2022.6.15閲覧
- (56) 国際連合広報センター 「持続可能な開発目標（SDGs）とは」
https://www.unic.or.jp/activities/economic_social_development/sustainable_development/2030agenda/ 2022.6.15閲覧
- (57) ジェトロビジネス短信
「EU専門機関、新型コロナウイルスの世界的拡大リスクを指摘、欧州でも警戒強化」
<https://www.jetro.go.jp/biznews/2020/01/135f7cb03d58d7a1.html> 2022.6.26
- (58) Tirol Info 「Cancelled Krampus Run in Tarrenz」 2021
<https://www.tyrol.com/things-to-do/events/all-events/e-krampus-processions-tarrenz> 2022.6.26閲覧

コロナ禍中の民俗行事 菅根

- ⁽⁵⁹⁾ Tirol Info 「Cancelled Saint Nicholas Parade and Krampus Run in Igls」 2021
<https://www.tyrol.com/things-to-do/events/all-events/e-nikolauszug-und-krampuslaufen-in-igls> 2022.6.26閲覧
- ⁽⁶⁰⁾ Lonely Planet 「Why the Krampus parade is a Munich holiday you don't want to miss」
<https://www.lonelyplanet.com/amp/articles/krampus-run-munich>
2022.6.26閲覧
<https://www.bavarianbeervacations.com/package/krampus-2021/>
- ⁽⁶¹⁾ Krampusgruppe Haiming 「Krampuslauf 2020 - Video」
<https://krampusgruppe-haiming.at/krampuslauf2020-video/> 2022.6.15閲覧
- ⁽⁶²⁾ Antenne Steiermark 「Antenne Online Krampuslauf 2020」
<https://www.youtube.com/watch?v=e5ADgYm6gt8> 2022.6.15閲覧
- ⁽⁶³⁾ Join the Krewe 「New Orleans Krewe of Krampus」
<https://kreweofkrampus.com/new-orleans-krampus/> 2022.6.15閲覧
- ⁽⁶⁴⁾ NOLA.com 「Photos: The Krewe of Krampus holds a drive-through parade」
https://www.nola.com/multimedia/photos/collection_1e585fc0-3803-11eb-b98f-f3eae9bff17c.html#1 2022.6.15閲覧 2020.12.6
- ⁽⁶⁵⁾ Krewe of Krampus 「2022 MEMBERSHIP IS OPEN」
<https://kreweofkrampus.com/krewe-of-krampus-membership/> 2022.6.3閲覧
- ⁽⁶⁶⁾ クランプスジャパン 「新型コロナウイルスの影響によるイベント中止のお知らせ」
<https://www.krampus-japan.com/news.html#1011> 2022.6.16閲覧

(すがね ゆきひろ 本学教授)